

生きることを、みんなで、つくる

藤村香菜子

京都市立芸術大学での学びの、大きな特徴の一つに、専攻分野の垣根が低いことがあります。受験科目から共通の内容で、一回生の時は専攻ごちゃ混ぜで課題に取り組み、専門分野に分かれた以降も取り組める選択制の授業として「つちのいえ」がありました。私はその中で、「生きることを外注しすぎない」と「専門分野を超えて力をあわせる」ことの面白さを学びました。

今や、暮らしの中で様々な便利なサービスが出てきていて、暮らしの全般をほぼ外注できると言っても過言ではないでしょう。しかし「つちのいえ」では、土地を整備し、土を採取し、屋根を葺き替え…ものの成り立ちがわかり、身体を動かし、自分の暮らしを作っていく魅力を知ることができました。便利なサービスに「使われる消費者」になりがちですが、「使いこなしていく生産者」になっていく方が面白いと思います。

そして昨今、世の中で求められる仕事の専門性が上がっているように感じます。仕事の始めから終わりまでを1人で完結させるよりも、分野を超えて力を合わせる必要性が高まっています。しかし、何を自分の専門とし、何を他人に頼んだら良いのか、またどういった配慮をして頼むべきなのか、心得ておく必要が出てきます。これも「つちのいえ」で、技術を持つ人のすごさを体感として知ることができたことや、他分野を極めようとしている仲間と共に取り組めた事が、今の力になっています。

私は元々、アーティストになるのではなく、広め手として活動するスキルを身につけたいと思い、京都市芸大に入りました。今は、工芸作家など、暮らしにまつわる技を持っている人のプラットフォームを作り、人材紹介・商品開発・小売・webやチラシや冊子やなど広報物の作成や各種SNSの運用・クラウドファンディング等で資金や仲間集めからサポートするなどの事業を行なっています。(一般社団法人わざごころPON <https://wazappon.link>)

一人一人が持っている力を、日々の暮らしの中で、より発揮できる世の中に。つちのいえで学んだ大切なことを、これからも生かしていきたいです。

2012年から参加。2014年工芸科染織専攻卒業。

主な受賞:2018年 第5回地域の起業家大賞、2020年 第8回京都女性起業家(アントレプレナー)賞

書籍:『元シティーガールの 田舎で 移住・起業 奮闘記-自分にも社会にもやさしい働き方-』



「つちのいえ」の土で、泥染めをしているところ。音楽学部の現代音楽の発表会で、会場ホールの残響を削減しながら会場演出ができるものとして用意した。



卒業制作として取り組んだ、縦横とも古着で四方耳で織れる織り機。後に特許をとって製品化。



暮らしにまつわる技を持っている人のプラットフォーム「わざごころPON」の拠点